



学校図書館実践事例集

# 本と子どもをつなぐ学校図書館 ～沖縄県立名護特別支援学校～



## 児童生徒が安心して 使える図書館づくり



特別支援学校ごとの特徴に合わせた、生徒が安心して利用したいと思うような図書館の紹介をします。

### 1 レイアウト等の工夫



#### ■図書館としてできること

特別支援学校なので、さまざまな生徒がいます。そのため、各生徒の特性を理解した図書館の運営をしています。たとえば、年齢や発達に合わせた図書館の利用案内を行ったり、生徒の興味を引く展示を開催しています。



出入り口には感染症対策のための消毒液を完備

生徒への個別対応



ボーダーの柄が苦手な生徒のために、排気口等のボーダーに見えてしまうものはシートを貼って、この部分が見えないように工夫しています。

#### 季節を感じるができるカウンター



生徒の興味を引くかわいいカウンターです

## ■書架について

書架を移動すると混乱する生徒が多いため、書架はなるべく移動させません。また、自分の中で本の定位置が決まっている生徒もいるので、必ず日本十進分類法や図書館の配架場所に合せた本の配架をするわけではなく、その生徒の本の定位置を司書が覚えてそこに配架したりもします。



生徒の自立を促す本もあります。  
ひとりで靴が履けるようになるかな？

### 生徒への個別対応

こだわりの強い生徒は「この本はここ」と自分の中で決めたら、司書が本を所定の場所へ戻しても、また同じ場所に戻してしまいます。そのため、配架場所とは少し違う場所に本があったりもするそうです。本年度のこの本の定位置はこちらになりました。



手で触る感覚から読書を楽しみたい生徒のために、さわって楽しむ絵本も揃えています。

季節の展示は図書館の中央で。  
今月はどんな日があるのかも紹介しています。



1番人気がある食べ物の本のコーナー



生徒が疲れた時にちょっと寝転がったり座ったりして休むことができるスペースもあります。

## 児童生徒と本との「であい」をつくる



どんな本を読んだらいいのかわからない…という子どもたちにより多くの本に触れてもらうための取組みについて紹介します。

### 1 学校の取組



#### ■教員のおすすめ本展示

生徒によって特性に違いがあるので「どんな本を読んでいいかわからない」という生徒もいます。そのため、先生方がそれぞれおすすめの本を紹介し、展示しています。



先生たちのおすすめ本は展示するだけでなく、資料としてファイリングしています。



先生たちのおすすめ本は人気コーナーの一つ。ここにはない本は貸出されていることも生徒に案内します。

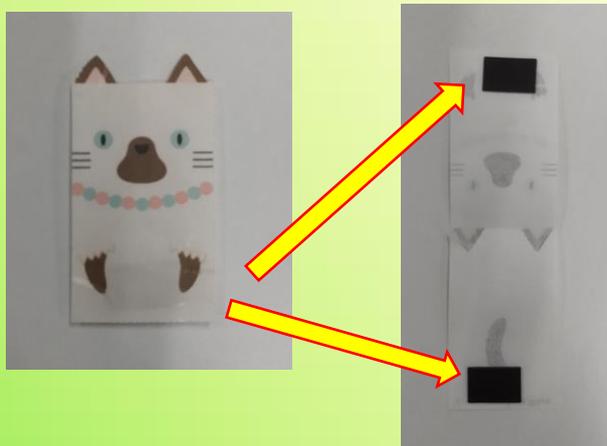
## ■「慰霊の日」の取り組み

6.23 の慰霊の日に向けて沖縄戦関連の展示を行っています。沖縄戦に使われていた実際の道具を博物館から借りて生徒に見せたり、沖縄戦のパネルを展示したりと工夫があります。



## ■読書月間で配布した手作りの葉

固い紙を使って葉を作ってしまうと、生徒が怪我をする可能性があるので、葉は柔らかい紙で、生徒の口に入らない大きさに作っています。紙だけだと落としてしまったり取れたりもするので、磁石でページにくっつくようにしています。

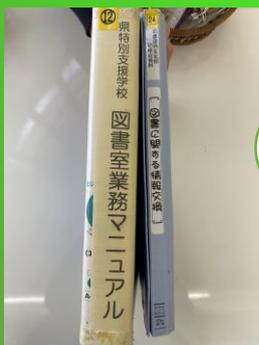


## 2 地域との連携

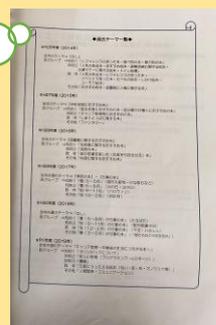


### ■他の特別支援学校や北部地域の学校との連携

他の特別支援学校や同じ北部地域にある県立学校同士で研修や情報交換をすることがあります。特別支援学校同士でマニュアルも作成して、新しく赴任する司書に引き継がれています。



全体のテーマと校種別のテーマで情報交換を行います。



## ■ 県立図書館・市立図書館との連携

県立図書館や市立図書館から団体貸出で借りた本を生徒へ貸出しています。わからなくならないように学校の本とは別の棚に配架しています。



大型絵本は読み聞かせに使います。



生徒だけでなく、職員が使う資料も揃えています。



## ■ 職員や地域からの寄贈も受けています

学校職員からのご厚意による寄贈の本がたくさんあります。また、小学校等の図書館で廃棄する本がある場合は司書自ら出向いて学校図書館で利用できそうな本を収集しています。

沢山の寄贈のおかげで図書館の資料が潤います



名護特別支援学校では、幼稚部から高等部まで幅広い年齢の方が在籍しています。5種障害対応の学校であるため、各児童・生徒に合わせた対応と、集団生活を行う上で重要な「規則を守る」といったことを学習させる場としても活躍しており、本校の教育課程の理念の一つである「基礎基本の重視と個性教育の推進」の充実につながっています。